Health Behavioral Science
日本保健医療行動科学会
The Japan Academy for Health Behavioral Science
News Letter vol.112 2024.12.27

－112号目次－

●第39回学術大会ご案内（第1報）…… 1
●第38回学術大会を振り返って …… 5
●第38回学術大会　報告 …… 6
●学会企画共同研究(企画運営委員会)活動報告） …… 7
●第14期理事・監事選挙に関するご案内 …… 9
●第5回オンライントーク　活動報告…… 10
●【わたし紹介】工藤　うみ先生（弘前医療福祉大学） …… 11
●支部活動報告・お知らせ……12

第39回日本保健医療行動科学会学術大会のご案内（第1報）

明海大学HPより

■テ ー マ　人生100年時代の保健医療行動科学
■会　　期　2025年6月21日(土)･22日(日)
■会　　場　明海大学浦安キャンパス
■大 会 長　深井穫博(深井保健科学研究所)
■主　　催　日本保健医療行動科学会
■実施主体　第39回日本保健医療行動科学会学術大会運営チーム

※「プログラム・抄録集」はWebデジタル版のみとなります。Wi-Fi環境は整っておりますので、当日はスマホ、タブレット、ノートPC等の端末をご持参ください。開催前にお知らせするアドレスから「プログラム・抄録集」を事前にダウンロードいただくことをお勧めします。

▼プログラム概要　（内容・時間は変更される場合があります。）

6月21日（土）
11:00～　受付開始
11:30～12:50　拡大理事会・顧問評議員会
13:00～13:50　総会
14:00～14:50　開会の言葉、基調講演「健康長寿と歯科医療・口腔保健」
　深井穫博（深井保健科学研究所）
15:00～17:00　体験学習ワークショップ（交流集会を含む）
17:30～　懇親会（会場未定）

6月22日（日）
9:00 ～　受付開始
9:30～11: 30　一般演題口頭発表 20演題まで可
11:40～12:10　一般演題ポスターセッション 20演題まで可
13:00～13:50　特別講演：共有意思決定（仮） 中山健夫（京都大学）
14:00～15:00　シンポジウムⅠ「人生100年時代の保健医療行動科学」
15:10～16:10　シンポジウムⅡ「関連する学会の役割とつながり」
16:10 ～　閉会の言葉（学会長）

■参加事前申込と懇親会について

●参加費

事前申込：会員￥5,000 非会員￥6,000 大学院生￥4,000 学生￥3,000 ※事前に振込

当日申込：会員￥6,000 非会員￥7,000 大学院生￥5,000 学生￥4,000 ※当日受付にて支払

●懇親会費

会員・非会員￥5,000（予定） 席に限りがあるため事前申込者を優先とします。残席がある場合は当日にお申込みいただけます。

●申込方法

参加事前申込アドレスのGoogle フォームに必要事項を入力して送信のうえ、参加費等のお払込をお願いします。

※送信後に回答コピーメールが届かず、迷惑メールトレイにも自動分類されていない場合、ご自身のメールアドレスの誤入力が考えられますので、もう一度やり直してください。

●申込アドレス：

https://forms.gle/kRQPXY1CMi48KyoF8

●参加費等振込先：

三菱UFJ 銀行

東京女子医大出張所 （店番315）

普通口座 3673423

日本保健医療行動科学会 諏訪 茂樹

※参加費等振込みの完了をもって申込済みとなります。

※振込み手数料は申込者ご自身でご負担ください。

※一旦お振込みいただいた参加費等は、キャンセルや欠席の場合にも返金致しません。

※領収証の送付は同年6 月7 日以降となりますので、お振込み記録の保管をお願い致します。

●**事前申込及び参加費等振込の期間：2025 年3 月1 日～5 月31 日（※期間延長なし）**

■一般演題発表について

一般演題発表は共同発表者も含めて会員のみにより、学術研究に関するものを「研究報告」、実践等に関するものを「実践報告」とします。両報告とも保健医療行動科学に関するものとし、その目的（ないし目標）、方法、結果（もしくは現状）、考察（評価や残された課題）、文献等を発表してください。両報告ともに口頭発表あるいはポスター発表が可能です。

●口頭発表 （発表時間15 分＋質疑応答10 分）

パワーポイントのみでの発表となります。会場ではWindows パソコンをご用意いたします。パワーポイントの電子ファイルをUSB フラッシュメモリーにてご持参のうえ、受付を済ませて9 時15 分までに発表会場へお越し下さい。ご用意いただいた印刷資料の配布（50部程度）はご自由ですが、会場での印刷コピーはできません。

※申込が多数の場合、申込締切り後にポスター発表への変更をお願いすることもあります。

※申込締切り後に抄録を審査し、5 月中旬に審査結果や発表会場などをお知らせいたします。

●ポスター発表 （ポスターサイズ：90cm（横）×180cm（縦） 1 枚）
ポスターは6 月22 日（2 日目）の9:30 から掲示し、セッション終了後15:30 までに外していただきます。また、6 月22 日11：40－12：10 のポスターセッションにて、ポスター前での質疑応答をお願いします。
※申込が多数の場合、申込締切り後に口頭発表への変更をお願いすることもあります。
※申込締切り後に抄録を審査し、5 月中旬に審査結果や発表会場などをお知らせいたします。
●抄録の執筆
抄録テンプレートをダウンロードし、A4 サイズ1 枚に入力のうえ、後にページ数挿入のためにワードファイルのまま、ファイル名を演題タイトルにして提出して下さい。
テンプレートの余白、ヘッダ、フォントサイズなどのページ設定は変更しないで下さい。
※採択された抄録の著作権は日本保健医療行動科学会に帰属します。
※発表抄録は電子化されWeb サイト等で公開される場合があります。
●申込方法
一般演題発表申込アドレスのGoogle フォームに必要事項を入力のうえ、抄録執筆テンプレートに入力したワードファイルを添えて送信して下さい。
※送信後に回答コピーメールが届かず、迷惑メールトレイにも自動分類されていない場合、ご自身のメールアドレスの誤入力が考えられますので、もう一度やり直してください。
●申込アドレス： https://forms.gle/Ayx5E7nRVCq4PTVU7
●**申込期間：2025 年3 月1 日～4 月30 日（※期間延長なし）**
●抄録の審査基準
1）発表内容は保健医療行動科学に関する研究または実践等であり、国内外を問わず未発表のものである。
2）人もしくは動物を対象とした研究や実践の場合、倫理的配慮について抄録の本文中に明記されており、さらに人が対象の研究においては、研究の計画立案や実施にあたって、所属研究機関あるいは所属施設の研究倫理委員会ないしはそれに準じる機関等の承認を得たことが本文中に記載されている。
3）利益相反の有無について本文中に記載されている。
参照：日本保健医療行動科学会利益相反に関する指針
https://www.jahbs.info/riekisohan-shishin20230617.pdf
※審査結果のお知らせ（5 月中旬）後、5 月31 日までに事前参加申込（別記）をお願いします。
●非会員の方へ
一般演題の発表者は、共同発表者を含めてすべて会員である必要があります。
非会員の方は4 月30 日までに☆入会手続き
（ https://www.jahbs.info/membership.html ）をお済ませのうえ、★発表申込と★事前参加申込をお願い致します。
なお、☆入会手続き先（学会本部事務局）は、★発表申込先および★事前参加申込先（第39 回大会実行委員会）とは異なりますのでご注意ください。

■体験学習ワークショップ企画（一般公募）について

体験学習ワークショップ（交流集会を含む）企画の一般公募は、会員が主体的に企画・運営し、体験型の演習や参加者同士のディスカッションを行うことを目的としています。保健医療行動科学に関連するテーマをそれぞれが自由に設定できます。企画者の責任において開催することをご考慮のうえご応募ください。

●開催形式等

持ち時間120 分の自主運営。会場は教室形式であり、机イスは固定式で移動できません。

●抄録の執筆

抄録テンプレートをダウンロードし、A4 サイズ1 枚に入力のうえ、後にページ数挿入のためにワードファイルのまま、ファイル名を体験学習ワークショップ・交流集会タイトルにして提出して下さい。

テンプレートの余白、ヘッダ、フォントサイズなどのページ設定は変更しないで下さい。

※採択された抄録の著作権は日本保健医療行動科学会に帰属します。

※発表抄録は電子化されWeb サイト等で公開される場合があります。

●申込方法

体験学習ワークショップ・交流集会企画申込アドレスのGoogle フォームに必要事項を入力のうえ、抄録執筆テンプレートに入力したワードファイルを添えて送信して下さい。

※送信後に回答コピーメールが届かず、迷惑メールトレイにも自動分類されていない場合、ご自身のメールアドレスの誤入力が考えられますので、もう一度やり直してください。

●申込アドレス： https://forms.gle/CHUj93SfdwRGYAg37

●申込期間：2025 年3 月1 日～4 月30 日（※期間延長なし）

●非会員の方へ

体験学習ワークショップ・交流集会の企画者は、共同企画者を含めてすべて会員である必要があります。非会員の方は4 月30 日までに☆入会手続き（ https://www.jahbs.info/membership.html ）をお済ませのうえ、★発表申込と★事前参加申込をお願い致します。

なお、☆入会手続き先（学会本部事務局）は、★発表申込先および★事前参加申込先（第39 回大会実行委員会）とは異なりますのでご注意ください。

■お問い合わせ先

第39 回日本保健医療行動科学会
学術大会運営チーム
案内担当：萩・樋口
https://forms.gle/ho5fZ6se5PWBHQjv5

中川ギャラリー

～普賢菩薩と鎧ゾウ～

第38回日本保健医療行動科学会学術大会を振り返って

第38回大会長　任　和子

第38回日本保健医療行動科学会学術大会が、2024年10月26日・27日の両日にわたり、京都大学医学部人間健康科学科棟にて無事に開催されました。例年6月に開催される本大会ですが、今年は都合により10月開催となりました。それにもかかわらず、多くの皆様にご参加いただき、大変盛況のうちに幕を閉じることができました。本大会の成功は、参加者の皆様、発表や座長等でご登壇いただいた皆様、そして実行委員会をはじめ、当日の運営に携わってくださった皆様の多大なご尽力の賜物です。心より感謝申し上げます。また、本学会らしく、職業や役割や年齢を超えて和やかにコミュニケーションがとれる楽しい時間を共有できたことを、大変うれしく思っております。

本大会のテーマは「ウェルビーイングと行動科学」でした。このテーマは、ウェルビーイングが単なる身体的健康の概念を超え、精神的および社会的健康をも包含する幅広い概念であることに着目したものです。このテーマのもと、基調講演や特別講演、シンポジウムを通じて、多角的な視点から議論を深めることができました。また、口頭発表やポスター発表、交流集会、体験型ワークショップでは、実践的な課題解決への取り組みや新たな知見が共有されました。

基調講演では、「『いつものように』を支える」と題し、ウェルビーイングが私たちの日常生活にどのように根付いているかについて、日常の当たり前が持つ価値と、それを支えるケアの重要性を、私自身の経験に基づいてお話ししました。特別講演Ⅰ「これからの幸福について：文化心理学的視点」では、内田由紀子先生が日本文化特有の協調的幸福感に焦点を当て、そのポジティブな面だけでなく、同調意識の影響や課題についても言及されました。また、職場や社会における「場」のウェルビーイングが、個人の幸福感を支える重要な要素であることが示され、日本的な協調性を「開かれた協調性」へと進化させる必要性が強調されました。特別講演Ⅱ「ウェルビーイング：『幸せ』との関係性」では、井筒節先生がウェルビーイングを国際的な歴史と指標の進化を交えて解説されました。ウェルビーイングを追求する際には、単なる幸福の追求ではなく、「とても苦しい状態でないこと」を目指すべきという人権的視点が重要であり、社会的障壁を取り除き、多様な価値観に応じた選択肢を提供することの必要性が語られました。シンポジウム「地に足をつけてウェルビーイングを考える」では、ヤングケアラー、ホームレス、シングルマザーなど、現代社会のさまざまな課題に直面する人々に焦点を当てました。具体的には、ヤングケアラーが抱える生活の負担と保健医療との接点、ホームレス支援における行政とNPOの役割、シングルマザーの社会的孤立への対策などが議論されました。この中で、寄り添うことの価値、それを仕組みとして継続していくことが、ウェルビーイングを実現するために重要であるとの認識が深まりました。

本大会での議論を通じて、ウェルビーイングを多角的に理解し、個人と社会がともに成熟していくための具体的な方法を模索できたと確信しています。本大会が、参加者一人ひとりにとって学びと実践の新たな一歩となり、さらなる活動の糧となることを願っております。

最後に、今回の大会を成功に導いてくださった皆様、そしてご参加いただいたすべての皆様に改めて感謝申し上げます。

第38回学術大会　参加者からの声 （大会後アンケートからの抜粋）

アンケート回答者：18名　※参加登録者数　109名（会員81名、非会員28名）

＜基調講演　「『いつものように』を支える」＞
講師ご自身のご家族を看取られた経験や、研究の知見から改めてこれまでの暮らしを支えるための身体や日常生活へのケアの重要性について考えました。いかにしてその人のかけがえのない日常への感受性を高められるかが大切なことであると思いました。
「いつものように」を支えるということは、「日常のあたりまえ」に相手を通して自分が気付くことだとわかりました。

＜特別講演Ⅰ　「これからの幸福について：文化心理学的視点」＞
研究結果、データをもとに話すことの強さを感じました。
とても感銘を受けました。幸福もまた相手があって感じられることだと再確認しました。日本人の文化的心理背景と世界の人々との違いや特徴。面白いと思いました。

＜特別講演Ⅱ　「ウェルビーイング：『幸せ』との関係性」＞
日本という国は「幸せボケしている」と言われる所以が少し理解できました。健康・平和・経済の密接な結び付きが理解できました。
とてもグローバルな内容でしたが、グローバルでありつつその地域に応じた草の根的な活動が重要であると思いました。

＜シンポジウム　「地に足をつけてウェルビーイングを考える」＞
今回の機会がなければ？見過ごしてきた、見なかった状態、人々です。社会には自分と異なる状態、状況にある人々がいるということ、関心を持ちたいと思いました。
講演が大きな枠組みのお話でしたが、シンポジウムはミクロな視点となり、実践者として活動を行われている方のお話を聞くことで、ウェルビーイングの定義が明確になったように思います。

＜体験学習ワークショップ④「行動の強化につなげるABC分析～応用行動分析のススメ～」＞
意図的な言葉かけによって、直接指示されるよりも効果が現れることを目の当たりにしました。

＜交流集会⑤「『ウェルビーイング』を支える」ことに、わたしたちは何ができるのか？」＞
改めて自分のもつウェルビーイングを深堀りできる機会でした。他の参加者の意見や言葉に対する共感力が向上したように思います。

＜懇親会＞
お料理はどれも美味しく、司会も最高でした。和気あいあいとたくさんの方と楽しくお話をさせていただくことができました。

＜大会運営＞
困っていた時も、お尋ねしたい時も、丁寧に対応していただき行き届いていると思いました。

＜次年度以降の学術大会のテーマ等＞
「新しい行動科学の概念」「能動的なアプローチ」など

学会企画共同研究(企画運営委員会)活動報告

日本医学教育学会多職種連携教育部会と本学会企画研究グループとのコラボ企画

「職種間理解のための対話的プログラムDMIUを体験してみよう！ 」

学会企画共同研究グループ　野呂瀬崇彦（ならは薬局）

私たち学会企画共同研究グループ【岡美智代（群馬大学大学院、代表）、野呂瀬崇彦（ならは薬局）、樋口倫子（明海大学）、木村聡子（宝塚大学）、小坂素子（神戸女子大学）、二瓶映美（秀明大学）、松本光寛（群馬大学大学院）、吉野亮子（関西医療大学）】は、2021年度より活動を開始し、学会より研究資金支援を受けて、現在職種間連携、職種間相互理解に関わる研究に取り組んでいます。本グループは、リフレクティングという対話手法を活用した、職種間理解のための対話的プログラムDMIU（Dialogical Meeting for Interprofessional Understanding）を開発し、自治体主催研修会や本学会学術大会交流集会等で実践してきました。本稿では、2024年8月10日（土）に実施した、第56回日本医学教育学会大会ワークショップについて報告いたします。

１．背景

日本医学教育学会は、我が国の医療に貢献できる医療専門職の育成のために、医学教育に関する研究の充実・発展ならびにその成果の普及を目的として活動しています。執筆者である野呂瀬は、同学会の多職種連携教育部会に所属し、オンラインミニカフェや学会ワークショップ等で活動しておりました。第56回大会開催にあたり、同部会と当研究グループとのコラボ企画として、大会ワークショップにおけるDMIU実施を提案したところ採択いただき、今回のDMIU実践の運びとなりました。

２．DMIUとは？

DMIUは2022年度の第37回保健医療行動科学会大会においてワークショップとして実施しており、東京支部例会や浦安市多職種連携研修会での実践についてもニューズレターでご報告させていただいておりますが、改めて概要をご紹介します。

DMIUは、リフレクティングの手法を用い、臨床症例のケースをもとに各職種がどのように患者・利用者に関わるのかを対話と観察を通じて理解を深めるプログラムです。3セッションから構成されるプログラムでは、7～8名からなる班が2グループに分かれ、「対話」と「観察」が交互に行われます（図参照）。
セッションのレディネスを高めるとともに、自身のふり返りを促す目的で、セッションの前後で「日本語版多職種連携コンピテンシー自己評価尺度」（春田, 2016）を用いて、多職種連携に求められる資質、能力についての解説、自己評価も組み込んでいます。自治体研修においては、同尺度と自由記述を用いたアンケートを3か月後に実施することにより、参加者の変化についてもトレースします。

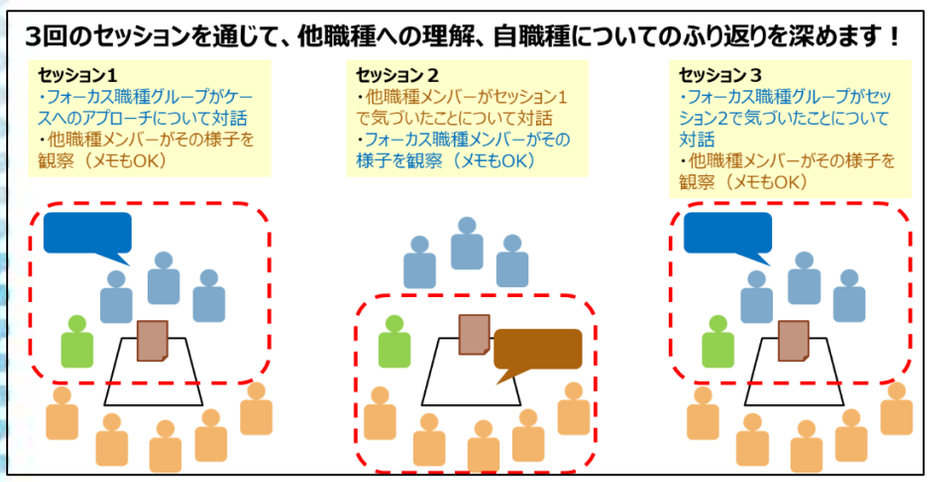

図　DMIUにおけるセッションの構造

３．本大会ワークショップについて

第56回日本医学教育学会大会は帝京大学板橋キャンパス（東京都）で、8月８日（木）～10日（土）の日程で開催されました。本ワークショップはWS14として採択され、当日は途中参加者も含め60名を超える方々にご参加いただきました。このワークショップは、参加者にDMIUのセッションを体験いただき、医療者教育の中でどう活用できるかを検討することを主眼として実施しました。プログラムは下記のとおりです。

8：30～	挨拶、趣旨説明
8：35～	第一部　DMIU を体験してみよう
	１．DMIU 開発の背景と進め方
	２．多職種連携コンピテンシーについて
	３．セッション
	セッション１　フォーカス職種グループの対話
	セッション２　他職種グループの対話
	セッション３　フォーカス職種グループの対話
	セッション４　ふり返り
9：30～	第二部　DMIU をどう教育に活用する？
	１．進め方説明
	２．各グループで検討
	３．全体共有
9：55～	挨拶、アンケート依頼（10：00 終了）

各セッションでは、ファシリテーターの進行のもとで活発な対話が交わされていました。また、DMIUの背景となりリフレクティングやオープンダイアローグをテーマに研究されている多職種連携教育部会の部会員の医師から、今回プログラムに対する背景理論やポイントについてのコメントをいただくこともできました。なお、本ワークショップではDMIUの体験を主眼としているため、コンピテンシーの測定は実施せず、評価方法の説明にとどめました。

また、第二部の教育活用のディスカッションでは、オンラインコメント共有ツールslidoを使って参加者の意見を可視化し、短時間で様々な視点からDMIUの活用の可能性について意見を共有できました。

アンケートからは、次のような感想、ご意見をいただくことができました。

・「「話す」「聞く」と場面によって役割がはっきり分かれるので、自然とフォーカス職種の話に引きつけられるように感じました。その職種はどんなことが分からないのか？という点が分かりやすくなると思いました。」

・「セッションの構成が非常に面白いと感じました。最後の最後までフォーカス職種とそれ以外の対話をお預けにすることによって、相手にどうみられているかどういう自省を促進する仕組みができていると感じました。」

・「参加者が事前に準備しなくても、安心して望むことが出来る、有意義なワークショップだと思いました。また、お手伝いさせていただきたいと思います。」

「授業で行いたいので、ファシリテーターのガイドラインを教えていただけると嬉しいです。よろしくお願いします。」

e メールアドレス登録の【重要なお願い】

会員管理システムの導入に伴い e メールアドレスの登録が必須となりました。e メールアドレスが未登録の方は、すみやかに学会事務局（info@jahbs.info）までお知らせください。すでに eメールアドレスをご登録いただいている場合の変更は、会員管理システムからご自身で可能です。

４．今後の展開

今回のワークショップを通じて、卒後の研修会だけでなく、卒前の医療福祉教育における活用ニーズを実感することができました。また、本プログラムのリフレクティングトークのフレームが自己理解、他者理解に有用であるとのフィードバックをいただき、医療福祉関係者だけでなく、様々な領域において活用できる可能性をみいだすことができました。
今後は参加者に応じたケースや、ファシリテーター養成プログラムの開発を進めていきたいと思います。会員の皆様のなかで、DMIUにご興味がおありの方がいらっしゃいましたら、是非お声かけいただければ幸いです。

【DMIUに関する問い合わせ先】
日本保健医療行動科学会　企画共同研究グループ DMIU担当
野呂瀬崇彦　（ならは薬局）
Mail:　norose.naraha.ph@gmail.com

～十一面観音～

第14期理事・監事選挙に関するご案内

学会ホームページに掲載されているとおり、現役員（第13期）の任期は、来年（2025年）5月末日で満了となりますので、会則と理事・監事選出規約に基づいて、本年12月16日から第14期理事・監事選挙を実施しております。本学会ホームページの選挙に関する案内を事前にご確認の上、ご投票いただけますようお願い申し上げます。

選挙有権者（選挙者）は、2024年9月30日（木）時点において、2023年度会費を納入している通常会員と学生会員、並びに2024年度に新規加入され、同時点で入会手続きを完了している通常会員と学生会員です。また、同時点における連絡先不明者及び学系不明者を除く、全ての会員が選挙有権者（被選挙者）となります。

なお、投票は電子投票システムを用いて行い、選挙期間初日に、電子投票システムから個別にご案内をお送りいたしました。「i-vote.jp.net」のドメインから送信いたしましたが、届いていない場合、選挙管理委員会宛にお問合せください。

日本保健医療行動科学会 選挙管理委員会

「中川記念奨励賞」候補者ならびに「奨励研究員」の募集

【日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞】

中川記念奨励賞の候補者を募集いたします。受賞年度において 45 歳未満もしくは学会入会後10年未満の通常会員で、保健医療行動科学に関する学術的研究あるいは教育を含む諸活動において、顕著な業績を上げている方が受賞の対象になります。自薦・他薦いずれでも結構ですので、奮って応募してください。応募者は、本学会 Web サイトに掲載されている最新の「中川記念奨励賞内規（2023.6.17.最終改定版）」及び「中川記念奨励賞候補者の業績についての選考内規（2023.6.17.最終改定版）」を参照の上、履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。

【日本保健医療行動科学会奨励研究員】

本学会では奨励研究員の制度を設けています。これは正会員で、関連分野での研究活動を行いながらも常勤の所属に恵まれない方々のために、少しでも社会的不利益を補完・救済することを目的とした制度です。この身分を希望される方は、希望の理由と履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。奨励研究員の呼称を認められた方は「日本保健医療行動科学会奨励研究員」の身分を用いて論文の執筆や学会発表ができます。対象者の年齢制限はなく、任期は 1 年間とし、状況に応じて更新が可能です。審査・登録にかかる費用は無料です。応募期限は特にありません。

第5回オンライントーク　活動報告

共催　日本保健医療行動科学会･当事者語りの研究会～悠久～

当事者との対話「であいは　みちしるべ～パーキンソン病とともに～」

【語り手】河本　環（言語聴覚士・当事者語りの研究会～悠久～役員）
【日時】令和6年8月18日（19:00～20:30）
【場所】ZOOM　オンライン会場

当事者語りの研究会
～悠久～
SINCE2022

「語りから生まれる共感的空間を体感して」

【コーディネーター】　梓川　一
（日本保健医療行動科学会理事・当事者語りの研究会～悠久～会長）

河本さんの語りには、これまでどのような人生を歩んで来られたのか、その人生と向きあう思いで溢れていました。オンライントークでは、私は河本さんと語りあいながら歩ませて頂きまして、人生とは何かを実感していました。私も長らく難病と向きあってきまして、人生からの問いにどのように向きあっていくのか、このことを傍で教えてもらいました。

参加者には、河本さんの語りからエネルギーをもらえた方々がおられたのです。その方々は、自らの難病のことをこれまで誰にも語ることができないままの自分がいて、でもこのチャンスにカミングアウトすることができたとのことです。これは、一人の難病者が、一人の難病者に勇気をお渡ししているのです。素のままの人間と人間の関係性です。きっと、河本さんの語りが心に響き、ご自身の気持ちに正直になることができたのでしょう。語りが、仲間のナラティブを引き出し、認めあう空間になっていたのでしょう。

人がこれまでの思い出を語るとき、心準備がないままに語ることも素敵なことです。その時その時の自分になって、その時のことを思い出しながら語る、過去の経験の中にいる自分と再び向きあうこともできる、そして人と人が様々な共通性ももって、互いに聴きあう方々とわかちあいの関係性がつくられていくのかもしれません。不思議で魅力的な関係性です。

オンライン空間でありながらも、河本さんの語りに、皆さんがあたかもすぐ身近で向きあっているかのように、対話の世界観を共感しあいながら、互いを見守りあっている…語っている方のこれまでの人生やナラティブを自分の中にも取り入れることができていく…

こうして多様な共通性が生まれてきて、感じあえる関係性の輪ができあがっていき、そこには人間と人間の豊かな対話があり、人と人の心と心に作用しあい、それぞれの内面には埋もれかけていた人生の物語が再び生まれてくる…、そして共感的な空間になっていったのでしょう。この空間に、生きてきたことや生きていることを感じることができるのでしょう。とても居心地のいい空間でした。

改めまして、河本さん、ご参加を頂いた皆様、諏訪会長をはじめ学会の皆様に、心より御礼申し上げます。学会からのご支援があってこそ、このたびのオンライントークは実現できました。今後も、「学会」と「悠久」の共同でオンライントークを開催させて頂きたい思いを、ここに添えさせていただきます…

わたし紹介

わたし紹介とは会員の自己紹介により
紙面上で交流を深めるコーナーです

弘前医療福祉大学　工藤　うみ先生

私の専門は終末期ケア、現在ではエンド・オブ・ライフケアといわれるものです。病院と高齢者ケア施設の2か所で終末期ケアの臨床経験がありますが、同じ終末期ケアでも求められる看護にずいぶんと違いがありました。高齢者ケア施設での終末期ケア、つまり看取りは、ナイチンゲールの看護実践*1に近いものがあり、かつ、まだ概念化されていない新しい看護であることを実感しました。私は、このような看護実践を素直に「面白い！」と感じました。看護にはまだまだやれることがある、そう思いました。しかし、それを面白いと思える看護師は少数派のようで、例えば特別養護老人ホームの看護師の離職率は病院や訪問看護に比べて高い状況です。離職理由は様々あるのですが、ひとつには高齢者ケア施設での看護師の役割・機能がまだはっきりしていないことがあるのではないかと考えています。

そのようなことから現在は、高齢者ケア施設における看護をフィールドワークやインタビューを通して明らかにし、明快な言葉で概念化したいと考えています。特に看取り期は看護の出番ですので、看護師が主体的に作り上げる看取りケアを新しい看護として記述したいと思っています。また、私と同じように高齢者ケア施設での看護に面白みを感じ実践を続けている看護師たちが、どのような試行錯誤を経て今に至ったのかを興味深く観察しています。看護師たちの行動変容が、穏やかな生活や死につながるのであれば、その変容プロセスを明らかにすることには大きな意義があるはずです。さらに、暮らしの場での穏やかな死は、専門職の努力だけでは叶わず、地域や社会の看取りに対する理解や参加が不可欠であることを経験から学びました。今は、『コンパッション都市』＊2に書かれているようなヴィジョンがどうすれば実現するのか、コミュニティがコンパッションを持つとはどのような状態なのか＊３を考えています。このような研究活動をしていることから、貴学会の設立趣意に共感し入会させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

＊1　2023年に発行された『超人ナイチンゲール』（栗原康、医学書院）は、これまでのナイチンゲールのイメージを覆してくれる傑作です。ナイチンゲールが考えたこと、行ったことが詳細に書かれているため、看護というものへの理解も明確になります。私はこの本に書かれているような看護の強さ、勇ましさを取り戻すべきだと思っています。

＊2　アラン・ケレハー：コンパッション都市：終末期ケアと公衆衛生の融合．慶應義塾大学出版会．2022

＊3「コミュニティがコンパッションを持つ」ということを考えたときに私が思い浮かべるのは、先日ノーベル文学賞を受賞したハンガンの小説です。特に、『少年がくる』と『別れを告げない』は集団トラウマに対するグリーフケアの役割を果たしているように感じられ、コミュニティのもつコンパッションを強く感じます。

支部活動紹介

第112回東京支部研究会活動報告

NL106　本の紹介より

【テーマ】 人々の暮らしに寄り添うエスノグラフィック・インタビューを学ぼう
【講師】道信良子先生（福井県立大学教授・日本保健医療行動科学会評議員）
【日時】令和6年9月7日（9：00～16：00）
【ファシリテーター】 蓮井貴子（日本赤十字北海道看護大学）

2024年9月7日（土）、順天堂大学本郷・お茶の水キャンパスにおいて、福井県立大学教授の道信良好先生を講師にお迎えし、「人々の暮らしに寄り添うエスノグラフィック・インタビューを学ぼう」をテーマにワークショップを開催しました。エスノグラフィック・インタビューは現場に密着し、人々の暮らしを丸ごと理解しようとする調査手法です。当日は、学会員10名、非学会員12名の計22名が参加し、学びを深めました。

プログラムは、ヘルスエスノグラフィの方法論についての講義からはじまりました。次に、エスノグラフィック・インタビューの実践として、3人1組でのグループワークを行いました。参加者は、研究における適切な問いの立て方から、インタビューの実施、そしてカバータームの特定まで、一連のプロセスを体験的に学習しました。

参加者からは「質問の難しさを実感しながら、具体的な手法を身につけることができた」「テーマの絞り方から質問紙の作成まで、論文執筆に向けた具体的な示唆が得られた」という声が寄せられました。また、「質的研究に取り組む仲間との出会いが貴重だった」との感想もあり研究者間のネットワーク形成の機会ともなりました。さらに、アンケートには「ワークに没頭していた」という感想もあり充実した学びの機会となったようです。

第113回東京支部研究会のご案内

【タイトル】 行動変容を支援する動機づけ面接(MI)とコーチング 2025
【講師】瀬在泉（防衛医科大学）、諏訪茂樹（東京女子医科大学）
【日時・場所】 2025年2月23日（日曜日）13:00-17:00　Zoomオンライン会場
【参加費】 学会員 無料、非会員 ¥2,000（税込）
【詳細・お申込み】 こくちーずプロより https://kokc.jp/e/c2b8035d88f7d63de7cf192e7a2858f6/
【ねらい】
無関心期、関心期、準備期、実行期、維持期の5つのステージにより、行動変容の過程は説明されます。各ステージにはそれぞれに固有の課題があり、そのために必要となる支援技術は違ってきます。第111回研究会と同様に今回も、行動変容ステージと支援技術の関係を理解したうえで、無関心期や関心期で求められる動機づけ面接（MI）と、準備期や実行期に求められるコーチングとを、ロールプレイの演習を通して学びます。

【内　容】
13:00-13:50　導入講義：行動変容ステージと支援技術　諏訪茂樹（東京女子医大）
14:00-15:20　演習1：無関心期・関心期の動機づけ面接（MI）　瀬在泉（防衛医大）
15:30-16:50　演習2：準備期・実行期のコーチング　諏訪茂樹
16:50-17:00　まとめ　質疑応答

第139回近畿支部研究会

日本保健医療行動科学会 近畿支部事務局 （馬込武志）
Email : jahbs.k@gmail.com （近畿支部専用アドレス）

第63回北海道支部研究会

【諸般の事情で休止中】
日本保健医療行動科学会北海道支部事務局（森谷 満）
〒002-8072 札幌市北区あいの里 2 条 5 丁目
北海道医療大学病院内科・心療内科
Email : jahbshokkaido@yahoo.co.jp
Tel : 011-778-7575（病院代表）

～十一面観音立像～

日本保健医療行動科学会雑誌「投稿論文」随時受付中

●学会雑誌に掲載する投稿論文は随時受け付けています。
●雑誌の発行は年 2 回（6 月及び 12 月の予定）です。
●投稿原稿の種類は、原著論文、総説、研究ノート、資料、実践・活動報告です。
●投稿論文は「オンライン投稿・査読システム（Editorial Manager®）」にて受け付けとなります。
●投稿手順等の詳細は本学会 Web サイト（https://www.jahbs.info/）の「『雑誌』投稿について」のページに掲載しています。

～不動明王～

～普賢菩薩～

会員勧誘のお願い

会員の皆様には、本学会に興味や関心のありそうな方々に、本学会への入会をお勧めくださいますようお願いいたします。なお「日本保健医療行動科学会入会のご案内」は、本学会 Web サイト（https://www.jahbs.info/）から ダウンロードができます。ご協力をよろしくお願い申しあげます。

●2024 年度会費（2024 年4 月1 日～2025 年3 月31 日）及びそれ以前の会費が未納の方は、早急に「会員管理システム」よりお支払いの手続きをお願いいたします。会費納入に関してご不明な点やご相談などがございましたら事務局にご連絡ください（会員管理システム導入に伴い、会費の納入はオンラインでの銀行振込（りそな銀行宛）またはクレジットカード決済（各種）となります）。詳しくは本学会 Webサイトをご参照ください 。

● 2013 年 6 月(第 10 期)以降の理事会議事録及びニュースレター（第 81 号～第 99 号)を学会 Web サイトの会員専用ページに掲載しています。会員専用ページへのリンクは会員マイページトップにあります。ニュースレター第 100 号以降は学会 Web サイトで一般公開しています。

●退会をご希望の場合は、本学会 Web サイトから退会届の様式をダウンロードし、必要事項をご記入の上、PDF ファイルを e メールに添付して事務局に送付してください 。

（事務局連絡先：info@jahbs.info）

編集後記：今号は学術大会のお知らせ、わたし紹介、活動報告、選挙のご案内を掲載させていただきました。皆様にとって2024年はどのような年だったでしょうか？
私は本学会の学術大会に参加しました。対面は初めて緊張しましたが、楽しい懇親会のお陰で２日目は落ち着いて、楽しく参加することができました。任先生、実行委員の皆様、ありがとうございました。
来年度の学術大会は6月に明海大学で開催されます。運営チームの樋口先生からは、すぐそばの夢の国の誘惑に負けずに来てね♡と声をかけていただいたので、皆さま奮って参加しましょう（笑）。学会員の皆様にお会いできるのを楽しみにしております。
★Merry Christmas and Happy New Year★（白土）

発行：日本保健医療行動科学会　〒160-0022 東京都新宿区新宿4-1-22-702